

平成 27 年度 小規模多機能型居宅介護かんの里
事業報告書

1. 利用実績

	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月				
登録者	24	24	23	22	21	22				
増	1	0	0	0	0	1				
減	0	1	1	1	0	0				
通い	436	443	415	409	411	387				
訪問	533	604	570	575	560	557				
宿泊	160	168	130	133	131	112				
	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月	合計			
登録者	23	23	24	23	23	23				
増	1	0	1	0	0	0	4			
減	0	0	1	0	0	0	3			
通い	446	400	446	410	337	404	4,944			
訪問	478	463	457	453	451	483	6,184			
宿泊	171	124	151	142	117	145	1,684			
	自宅	病院	特養 ホーム	老健 施設	GH	小規 模	特定 施設	サ付 住宅	死亡	その 他
登録前の 状況	4	0	0	0	0	0	0	0		0
登録解除 後の状況	1	0	0	0	0	1	0	0	1	0

平均介護度・・・2.5（年度当初）→2.43（年度末）

登録者平均・・・22.91 人／月（23.92）

通い平均・・・412.00 人／月（400.41）、13.73 人／日（13.16）

訪問平均・・・515.33 人／月（483.42）、17.11 人／日（15.89）

宿泊平均・・・140.33 人／月（165.33）、4.67 人／日（5.44）

（ ）内は前年度実績

登録者平均は 22.91 人と昨年度に対し 1.02 人減となった。登録者数は 4 月に 24 名となったが、急に亡くなられた方や他の小規模多機能型居宅介護に登録された方もあり前半は登録者減が先行した。9 月以降は新たな登録者を結果的に年度末は 23 名の登録者で終えることが出来た。今年度もピークには同時に 4 名の方が入院している時期もあった。また入院される方は介護度が高い方のけいこうにある。

通いの実績は前年度と殆ど差異がないが若干の増、訪問が増え宿泊が減少している。居宅サービスとしての本来の役割が実績として表れている。

2. 収支

収入については、本年度は介護報酬改定の年であり、小規模多機能型居宅介護費（本体報酬）の単価も減少した。そのため本体報酬だけでも 4,000,000 円の減収（稼働率 100%、介護度分布平成 27 年当初）となったが新たな加算が創設され同様の計算で、加算では 3,500,000 円増加させることが出来るものとなった。この加算のうち計画していた訪問体制強化加算は職員 1 名が病気で休業をしたため算定せず、2,200,000 円～2,500,000 円の収入を得ることが出来なかった。

支出については、前年度と同等の状況であったが、介護職員処遇改善加算の給付率が 0.042 から 0.076 に引き上げられたため、手当の支給は 1,051,981 円から 2,098,557 円に上がっている。グループホームかんの里に対し 1,100,000 円の繰り入れを行った。

これらによって今年度は 651,932 円の赤字となった。

3. 職員研修

グループホームの負担軽減と職員個々の負担軽減のために合同開催を予定していたが、グループホームの職員配置の問題によって予定通りの研修が開催されなかった。

○ 内部研修

H27.4.27 介護保険制度の改正

H27.5.19 水分摂取の必要性とその方法

H27.6.18 福祉の理念研修 その 1「福祉の哲学」

H27.7.3 福祉の理念研修 その 2「人の価値 ハンセン病の歴史から学ぶ」

H27.8.5 福祉の理念研修 その 3「社会福祉概論」

H27.11.30 サービス評価学習会

H27.12.3 サービス評価学習会

H27.12.7 サービス評価学習会

H28.1.4 サービス評価学習会

H28.1.8 マイナンバー説明会

H28.1.15 サービス評価学習会

H28.1.18 サービス評価学習会

H28.2.29 かんの里研究発表会

H28.3.18 避難訓練

H28.3.24 避難訓練

○ 外部研修

H27.5.27～7.3 認知症介護実践研修実践者研修

H27.5.16 地域ケア会議実践研修

H27.5.19 安全運転管理者講習

H27.5.23 島根県介護支援専門員協会研修

H27.6.3 出雲地域介護保険サービス事業者連絡会研修

H27.7.1 サービス評価研修

H27.7.7 人事制度構築セミナー

H27.8.18 小規模多機能部会研修サービス評価学習会

H27.9.30 島根県介護支援専門員協会小規模多機能部会研修

H27.10.2 人事考課制度の設計・運用セミナー

H27.11.14～15 島根県介護支援専門員協会研究大会

H27.12.19 小規模多機能部会研修「地域サービスに役立つレビー小体型認知症の知識」

H28.1.20～21 全国小規模多機能型居宅介護事業者連絡会全国大会

H28.1.28 介護保険給付適正化研修会

H28.2.14 成年後見啓発セミナー

H28.3.25 満室対策セミナー

4. 行事

毎月季節の行事や歳時記にあわせた季節感のある行事、利用者の誕生日に合わせた誕生日会を開催した。行事に家族が参加されることは減ったが母の日、父の日、敬老の日には家族の協力を得ながら行った。また神門保育園、神門第Ⅱ保育園、神門幼稚園、そばの会、神門地区社会福祉協議会との連携による行事も実施した。それぞれの行事で世代間交流や地域交流となり、利用者も大変喜んでおられた。

5. 理念に基づいたケアの実施

「本人支援」、「継続的支援」、「地域で暮らす」、「地域で支えあう」の地域密着型サービスの理念に基づき、「尊厳の保障」、「家庭的な雰囲気」、「自立支援」、「絆」によって居宅介護支援及びサービス提供を行った。

利用者個々の支援方針やその方の望む生活の実現に向けたケアの提供が職員全体が取り組めるようになるためにさらに内部研修や意見交換の場を増やす必要がある。

6. 居宅サービス計画

居宅サービス計画書の作成は各担当者が随時変更を行ってきた。定期の訪問も実施出来ている。

今年度は課題整理票の導入と小規模多機能型居宅介護計画の整備に努めた。課題整理票を用いたカンファレンスを行ってきたが介護職員の発言が少ない。

7. 職員体制

登録者 25 名を支援し、各種の加算が算定できる体制でスタートしたが、介護職員 1 名が病気による休業をしたため、7 月以降訪問体制強化加算が算定できなかった。これを補充するためパートタイマーの採用をしたが、ひと月程度で退職していく状況が続いた。これについては原因に目当てをつけ対策をとったが、結果として 3 名の職員が年度末に退職する結果となった。

8. 次年度への課題

各種の加算が算定できる体制を整えることが収支状況の大幅な改善につながっていく。年度末から次年度当初に採用予定の職員を育成定着させていく。同時に、登録定員の空きを埋めることで、予算よりも多くの収入が得られるよう目指す。また登録者が他の事業所に異動したり、入院が増えたりしないように事業所の介護力をアップさせていく。